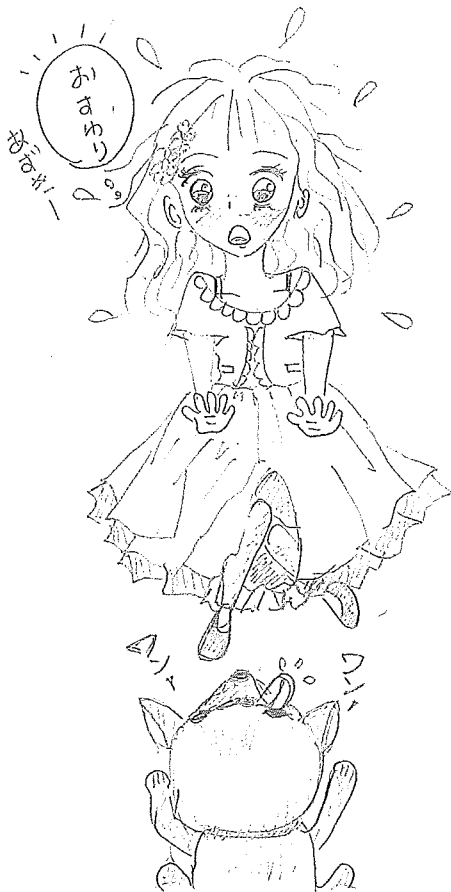


旅立ち

社会福祉法人しらとり会
利用者通信 (NO. 75)
令和3 (2021) 年12月1日発行

今回は、4名の方からの投稿です。



黒田美鈴

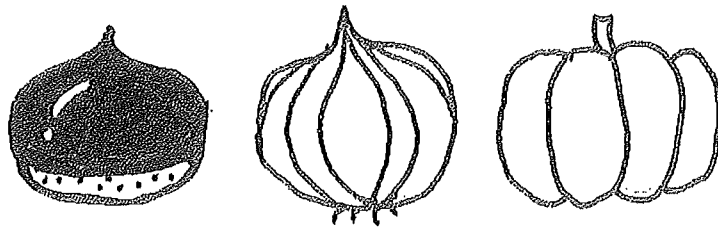
母さん

この年になると、不思議なことに母のことが頻繁に思い出される。少年時代、母は私の事を大きな愛で包み、広い世界に連れていってくれた。だから、今の自分があるのだと思う。母が亡くなって8年になるが長いような、短いような感じがする。

母は私にとって、今でも大切な人だ。昭和の初めに生まれた母は美しい人で、学問もよくできた。女学校のあとに京都女子大という大学に進んだのだが、そこでは、いつも首席だったそうだ。

母の京都好きが高じて、私も京都の大学へ進むことになった。

(Y.Y)



- 専門家に考える力はない。
- 考える力があるのなら大学で同じ専門教育を受けて同じ考え方を学び同じ知識・経験・技術を学ばない。
- 考える力のある人間は同じ事をするのを嫌う。
- 人と同じ考え方をしていると儲かるわけがない。
- 医者にしても PSW にしても大学等で専門教育を受けないと成れない仕事なのだから教えられないと分からない人間が何を偉っそげに患者や利用者にものを言うか。
- 医者の世界では 20 年前は外科部長になるまでに 2000 万円かかった。
- 正しい医療とは銭がかかりいかに儲けるかだ。

(加藤忠男)

【投稿の募集】

読んでいただいた方からのご感想をお寄せください。また、利用者の皆様からの投稿をお待ちしています。

次回の締切は、12月15日(水)です。

『旅立ち』編集委員：加藤、本川、A.-Z.、H.A.